

第 18 回東北アジア青少年フォーラム開会挨拶

国際 IC 日本協会会長 藤田幸久

私と MRA との出逢いは、MRA 国際親善使節 Song of Asia に参加して、2 年間にわたりアジア・大洋州の青年約 50 人と世界 14 カ国を歴訪した時です。そこで自分が戦争中における日本のアジア諸国における行動に対していかに無知であったかがわかりました。それ以来、未来に責任を持つためにも、過ちは謝罪し、正すことは正すことをモットーとしてきました。

国会議員としての初仕事は民主党の中国訪問団を企画した際に、先ず日本人残留孤児を育てて下さった養父母の方を訪問し、日本人が残っていた子供を育てて下さった老婦人に対してお礼を申し上げました。その後で胡錦濤副主席を訪問しました。

国際 MRA/IC は戦後の日韓関係改善の様々な橋渡しを担ってきました。フィリピンでの MRA 会議に出

席した朴賢淑元大臣は、日本軍による拷問で夫が不具者となった方ですが、星島二郎衆議院議員（元衆議院議長）と社会党の加藤シズエ参議院議員からの謝罪によって和解に至りました。帰国後この与野党二人の議員は岸信介首相を説得して、当時両国間で対立していた財産請求権問題などを岸総理が撤回することによって関係改善に向かいました。

また1962年にMRAアジアセンターが小田原市で開設された際、国交のない金鍾泌氏（後の首相）の来日が許され、大平正芳外務大臣と会談して、「大平・金メモ」で合意し1965年の日韓国交正常化に繋がりました。

現在のように世界中が危機に瀕している時こそ、当時のような大胆で創造的なリーダーシップが必要ではないでしょうか？

トゥーンベリさんは、自分のライフスタイルを大きく変えることによって両親を説得し、世界の指導者たちにチャレンジしています。是非フォーラムに参

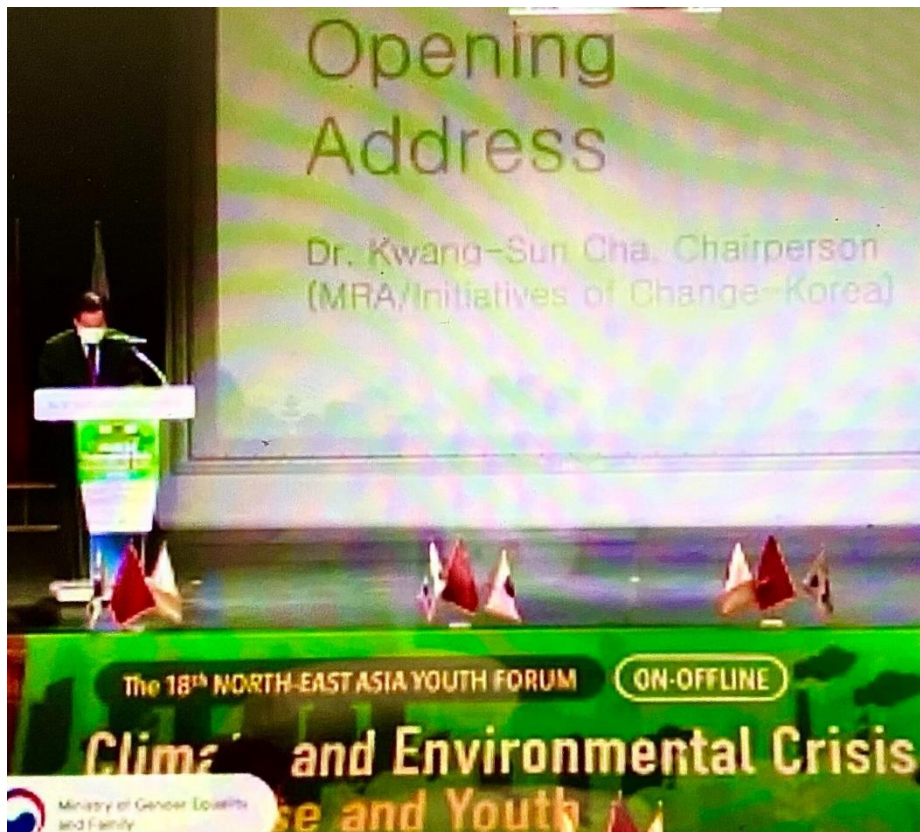
加している3か国の皆さんは、過去のくびきからも自由であり、協力しあい、トゥーンベリさんが行ってきたように世界の指導者たちにチャレンジして下さい。

そうした皆さんに広島原爆記念碑に刻まれている碑文を紹介します。

「安らかに眠って下さい 過ちは繰り返しませんから。」浜井信三広島市長にこの碑文の決定に大きな影響を与えたのが、1950年にスイスの国際MRA(現在国際IC)の世界大会に出席してドイツとフランスの和解を目の当たりにし、米国のアーリントンの無名戦士の墓を訪問したことだと言われています。

浜井市長は「この碑の前にぬかずくすべての人びとが、その人類の一員として、過失の責任の一端をにない、犠牲者に詫びることの中に、私は、反省と謙虚と寛容と固い決意とを見いだすのであって、その考え方こそが、世界平和の確立のためにぜひ必要だと考えた。」と述べています。

このフォーラムの成功と、皆さんの輝く未来を祈念いたします。チェンジの担い手であり、ピースメーカーである皆さんの！



ソウルでの開会式の様子

以上